

表2:〈テーマ〉増えた仕事、必要だが十分にできていない仕事

1-①保護者に関するケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線に関して色々な考え方の保護者がいるのでケアの部分で仕事はすごく増えているように思う</li> <li>保育方針をそのまま伝えることができず放射線に関する知識も含めたうえで保護者に伝えている</li> </ul>
1-②遊びの環境の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊ぶものはあっても環境が足りない</li> <li>見える場所に遊び場があるのが子どもにとって大事</li> </ul>
1-③放射線関連の仕事の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線量チェック、外遊びに関する保護者へのアンケート、市が行う除染業務を補完する除染業務といった放射能関係の業務については増えた</li> <li>従来の学童保育に加え放射線研修や学習会への参加、安全確認、線量計測の仕事が増えた</li> <li>市とのやりとりや他の学童からの問い合わせ対応が増えた</li> <li>放射能への説明など会議も多く学童にほとんどいられなかった</li> <li>市に報告を義務付けられてはいるが今でも毎日朝晩線量を測っている</li> </ul>
1-④子どもに寄り添うことの必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>前と比べて外に出たいという子がなくなったのが淋しい</li> <li>特に高学年が悩みを指導員に打ちあけたり、甘えてくる</li> <li>昔より「度をこした」遊びが増えて対応が難しい</li> <li>度をこした遊びを「大人びた対応」としながらやるのが気がかりだが、何か起因するのかが見えづらくどうしたらいいか迷っている</li> <li>子どもが素直にごめんなさいがいえぬ</li> <li>子ども同士のケンカやトラブルが増えた気はするがそれは遊べないストレスだったりとか規制ばかりするのでストレスがあるのだろうと思う</li> <li>子どもが言うことを聞かなくて指導員がかりかりすることは前より増えたが、一緒になつてかりかりするのではなく、子どもの気持ちを理解してあげることも必要と思う</li> <li>震災によるストレスもあるかもしれないがやんちゃな子は昔からいたし、受け止め方かなと思う</li> <li>夏場に閉め切った部屋に閉じこもる、線量を図るといった状況自体が異質で心に何らかの影響があったんじゃないかと思う</li> </ul>
1-⑤人員の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊び場不足で別れて遊ぶことが増えたので63人に6人は最低限の数</li> <li>塾ではないが子どもの放課後支援として学習にも関わりたいが仕事が増えたり難しい</li> </ul>
1-⑥子どもの心のケアと人員配置の不十分さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学童は子どもが遊ぶ場というだけではなく子供が返ってくる場所(居場所)なので今の人員配置では妥当と言えるか難しい</li> <li>震災後のストレスケアなど考えたときに人員配置ははたしてどこまで会っていて適応しているのか?</li> <li>運営自体に人数的には問題はないが、子どもの心によりそうということを考えると保育士の質ともかかわって難しい問題だと再認識</li> </ul>
1-⑦指導員の心のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導員もストレスがたまりけこうかりかりすることがある</li> <li>指導員の話を知っていると、結局自分が大変だから言うこと聞いてよっていう言い方をしちゃうときがある</li> </ul>
1-⑧遊びの伝達できていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までできていた高学年から低学年に遊びを伝えるというができておらず私たちが、一から教えるのでそこに時間をとられて子どもの中身と関わりたいと思ったときは6人では厳しい</li> <li>ここ2～3年間、遊びについて上の子から下の子に伝えるべきことができなくなっている</li> </ul>

出典:「ここで、歩みつづける」東日本大震災で被災地の福祉労働者が果たした役割に関する調査実行委員会